



おさ・たかし  
1941年生まれ。64年早稲田大学第二政治経済学部。67年税理士試験合格。71年監査法人太田哲三事務所入所。75年公認会計士第三次試験合格。76年公認会計士長隆事務所開業。2002年税理士部門を法人化、東日本税理士法人に名称変更、代表社員に就任。総務省地方公営企業アドバイザー、総務省公立病院改革懇談会座長など多数の公職を歴任。

# 「東北の病院改革は待ったなし。このままでは奥州生まれの後藤新平が泣いています」

「公立病院の4割は赤字。町づくりの視点を持った病院再編が不可欠だ」と警鐘を鳴らすのは公立病院改革に取り組んできた監査法人長隆事務所の長隆氏だ。コロナ禍でさらに公立病院の経営は厳しくなる一方だが、台湾総督府民政長官や南満州鉄道総裁などを務めた後藤新平の出生地の東北では子育てや住みやすい町づくりで地域活性化を実現した病院もある。長氏から見る現在の医療体制の課題とトップの持つべき使命とは？

監査法人長隆事務所代表

長 隆

Osa Takashi

「コロナ禍の病院運営町づくりの視点を持った福島県岩瀬病院に見るSDGsの病院経営とは？」

## 監査法人の掲げる基本理念

—— 長さんはかねてより全国の公立病院の再編・統合を提言しています。その内容を語ってもらう前に、まずは監査法人である長隆事務所が基本理念を掲げているのはなぜですか。

**長** 当法人の基本理念に「すべての人に健康と福祉を 住み続けられる町づくりに貢献する」と掲げています。通常、監査法人の使命は監査をすることですから、監査法人の理念には監査の質について謳うケースが

ほとんどです。しかも、監査をやればいいというスタンスになっていきます。さらに言えば、基本理念すら掲げていない監査法人があることも事実です。

しかし、私は監査を通じて何を實現するかが重要だと思っております。ですから、当法人は「すべての人に健康と福祉を 住み続けられる町づくりに貢献する」ために監査をさせていただいているというスタンスです。そういった視点の理念を掲げる監査法人は珍しいと思います。

—— 企業と同様に監査法人

もこの理念が大事になると。

**長** そうです。当法人は現在、全国の国立大学の監査業務の選定に向けて立候補しているのですが、そこでは必ずこの基本理念を読み上げています。監査法人は単に監査をしてあげるという姿勢ではなく、持続可能な町づくりに貢献するという目標のために監査をしているのです。そのモデルになったのが福島県須賀川市にある公立岩瀬病院のケースになります。

この岩瀬病院の母体は幕末に東北の水沢（現奥州市）に生ま

市は今では子供を産めて育てられる町として復活しています。—— かつては大変な状況にあったのですか。

**長** ええ。2008年頃、岩瀬病院では産科・小児科の医師不足が深刻化していたのです。そこで岩瀬病院は地元の福島県立医科大学からの医師の派遣先を一本化するために、国立病院機構福島病院との統合を検討しました。しかし、これは福島病院からの反対もあって実現には至りませんでした。

一方のこの福島病院も運営状況が厳しく、車で5分ほどの場所にある須賀川市の須賀川病院との統合も計画されたのですが、それも福島病院が拒否しました。その結果、約300床を擁する福島病院は医師不足が解消されず、医師が少ないために患者さんも少ないと。そのため、同病院の運営状況は赤字です。

福島病院との統合が実現しなかった岩瀬病院は医療・介護をはじめ、様々なサービスを提供する事業者間の連携という選択

をします。須賀川市では公立・民間の3つの医療機関が「地域医療連携推進法人」という仕組みを活用し、地域包括ケア、さらには人づくり・まちづくりを一体となつて推進しました。

## 福島県岩瀬病院の取り組み

—— 福島病院が反対した理由は何だったのですか。

**長** 2004年に厚生労働省が運営していた国立病院や国立療養所が独立行政法人化し、全国約140の病院を1つの組織として運営することになりました。そのため、本部が拒否してしまうと、分院の位置づけにある各国立病院も拒否します。したがって、統合破談は国によって止められた形になりました。

一方の岩瀬病院は全国規模の病院グループとの連携が難しいと分かり、連携推進法人の設立という形で地域での連携を深めたのです。地域に密着した医療機関にも参加を呼びかけたのです。その際、同院が掲げたのが「安心して子どもを産み育てる

れ、外科医をはじめ、台湾総督府民政長官や南満州鉄道総裁、内務・外務大臣などを歴任した後藤新平伯爵が医師になるために学んだ須賀川の医学学校になります。全国から医療を志す人たちが集まっていたようです。

—— 後藤新平は台湾の開拓にも携わりましたね。

**長** はい。以前、岩瀬病院にお邪魔したことがあるのですが、病院の4階には後藤新平記念館があり、後藤新平伯爵のゆかりの品々が展示されています。その岩瀬病院がある須賀川

ことのできる地域づくり」というスローガンだったのです。

将来にわたつてこのまちづくりが重要な課題であると認識したことから、岩瀬病院は自らの果たすべき大きな役割の一つとして産科婦人科を開設することを目標とし、実際に17年4月には一度はやめてしまっていた産科婦人科を復活させました。

—— 産婦人科は一度なくすと復活は難しいと聞きます。

**長** その通りです。さらには周産期診療も開始しました。すると、岩瀬病院の地元での評判は高まり、ますます人気がある病院へと変わったのです。東京をはじめ、県外から里帰りして出産する妊婦が2割近くを占め、分娩数も大幅に上がりました。加えて、産科婦人科診療棟には産後ケア用の病室も設けました。

出産後、子育てに悩んでマタニティー・ブルーになる若い母親もいます。妊娠・出産で女性の体は劇的に変化します。その時期にゆつくりできる場所と環



監査法人長隆事務所では「人づくり=まちづくり」というSDGsの精神を絡めた基本理念を掲げている。

境を提供しているのです。これも「安心して産み育てられるま

ち」の条件になります。病院がまさにSDGsの視点を盛り込

平は泣いたままになります。ですから、今後の病院の在り方として、地域の医療は公立病院だけでなく、公的病院や民間病院も含めて地域の医療提供体制を全体として考えていかなければなりません。各病院の役割を検討した結果、公的病院や民間病院などの再編が必要になるケースも出てきます。

奥州市に限らず、公立病院の4割は赤字です。中には改革をしたフリをしているだけの病院もあるようです。今後、公立病院の新設や建て替えに際しては、都道府県の十分なチェックを踏まえた上で適当と認められるものに対し、総務省が地方交付税措置を行うことになりま

す。これまでは申請すれば交付税は措置されていましたが、今後そういった甘いことはなくなります。—— その場合、やはりリーダーの存在が大きいのですか。岩瀬病院の再編も決断して実行したのは三浦純一院長（現名誉

んだ運営を行っている日本の病院界のモデルと言えます。—— 東北にも病院再編の好例があるわけですね。長 はい。しかし例えば奥州市の場合は、産婦人科の2次救急の対応ができていません。人口に対して病院の数が多すぎるのです。同市の場合、県立2病院と市立2病院の統合だけで十分です。できるならば、他の民間病院と一緒に再編・統合を考えなければなりません。実際、医師の数が少ないために、地元の女性の里帰り出産もできない状況です。また、医師にとつて魅力のない経営体質になっていきます。このままでは巨額かつ無駄な財政投入で、夕張市のような財政破綻をもたらすことも否定できません。そのためにも奥州市内の病院を再編することで、医療機能の選択と集中を行うべきだと思います。

**奥州市の地域医療のあるべき姿**

—— これまで東北では再編

呼応したかのように国は25億円を産婦人科病棟の建設のために拠出してくれました。当時の菅義偉官房長官の決断です。震災復興から立ち上がり、まちづくりという観点から産婦人科や周産期医療が必要だと判断してくださったようです。ただ、中にはこういった決断を阻害するような動きがあるのも事実です。

**医療人にもSDGの視点を**

—— SDGsの視点を持った医師による地域創生ですね。長 ええ。しかも三浦先生の取り組みに賛同する事業者がどんどん出てきました。三浦先生が医療のほか、食べ物と教育が整っている町であれば人は住んでくれると考え、JAグループとも連携しています。岩瀬病院内にJAの直売所を設け、地域の高齢者や職員も買うことができますようになっています。

さらに教育でも医療機関が参画できることはたくさんあると考え、岩瀬病院では地域の中学校から選ばれた中学生を受け入

の取り組みはなかったのですか。

長 以前、福島病院と福島県立医科大学との統合計画もあったのですが、それも実現しませんでした。このときも東京の本部が拒否したのです。私を感じるのは東京の本部から全国各地の国立病院に指示を出している今の仕組みでは地域の医療、ひいては町を守ることはできないということ。そもそも奥州市は後藤新平伯爵の出身地です。ですから、「後藤新平が泣いている」と私は訴えたいですね。

—— 地域の実情に合った病院の体制が根本から間違っているという嘆きですね。

長 ええ。奥州市は地の利に恵まれています。医師にとつて魅力があるような3次救急や高度医療までできる病院を岩手医科大学附属病院の協力を得ながら作り上げることが奥州市にとつても、病院にとつても、そして住民にとつても良いことだと思います。このままでは後藤新

れ、実際の手術室で鶏肉などを使った模擬手術を体験してもらっています。まさに「人づくり」の一環としての取り組みです。—— 医療もリーダーの力量によるところが大きいですね。長 そうです。もちろん、岩瀬病院を窮地から立て直した三浦先生のリーダーシップも大きいのですが、政府にも三浦先生の取り組みを支援するような人たちがいるということです。もちろん、そういうった動きを阻害して計画を壊すような勢力がいることも事実です。

SDGsは企業だけに絡む話ではありません。病院を含めた医療関係者にとつても欠かすことのできない視点になります。実際に東北では岩瀬病院の事例や山形県立日本海病院と酒田市立酒田病院が統合再編して発足した日本海総合病院など成功事例は出てきているわけです。歴史上の偉人である後藤新平伯爵を泣かすようなことにならぬよう、政府も含めて地域の医療関係者の志が求められます。